

# ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	川染 雅嗣
主な担当科目	ピアノ指導法,合奏特別演習①,合奏特別演習②,実技個人レッスン[ピアノ②,ピアノ実技 I ①,ピアノ実技 I ②,ピアノ実技 I ③,ピアノ実技 I ④,ピアノ I ②,ピアノ I ④]
シラバス	次ページをご参照ください
2022年の教育目標・授業に臨む姿勢	2022年度は対面授業が戻り、感染防止対策を施しながらも、学生たちと会話しながらレッスンや授業を進めることが出来るようになった。この状況を承けて、世界史と音楽史の連携、ピアノという楽器と産業革命の関係、ヨーロッパにおける市民階級の成立と音楽の関係等について折に触れレッスンや授業の中で問題提起をし、ディスカッションしていきたい。音楽を様々な側面から捉えるように学生を促していきたい。
2022年の教育に関する自己評価	上記の教育目標・授業に臨む姿勢は、幸い年間を通して維持することが出来た。例外的にごく基本的な演奏技術を未修得の学生に関しては技術的な指導が多くなった。しかし、通常のレッスンや合奏特別演習、楽器研究、ピアノ指導法を通して、学生たちに多くの問題提起を行い、音楽について多面的に理解することの重要性を理解させることが出来た。
2022年のFD活動に関する自己評価	2022年のFD活動についてはFD委員ということもあり、委員会と部会をつなぐ役割を果たした。加えて9月のFD研修会では学内組織においてファシリテーターを務め、意見交換の活発化を促した。更にFD研修会のみならずSD研修会にも参加し知見を広めた。
授業改善のために取り入れた研修内容	特に学内組織において各先生方からご発言のあった、多様な背景を持つ学生が抱える問題点に対する具体的な対応方法が、大変参考になった。

科目名－クラス名

## ピアノ指導法

## 曜日時限

水 2時限

## 担当教員

川染 雅嗣

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
	1～	通年	4	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	0	100
				100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

ピアノを指導するためには、指導者が具体的且つ系統的な指導法（メソッド）を持っていることが不可欠である。この授業ではブルグミュラー<25の練習曲>、<ソナチネ>等のアナリゼや作品の背景に関する理解をもとに、演奏法や指導法との関連を研究する。更に様々な問題提起に基づいてその解決のための具体的・実践的指導法を研究する。そしてそれらがより高度な作品にも応用できるように授業を展開していく。また、併せて音楽教室経営に関する実践的な経営方法についても言及していく。

## 学修成果

楽曲を詳細にアナリゼすることにより、音楽を客観視することができるようになる。そこから得られる発想をもとに演奏法、指導法を追求することで、確固たる自己の音楽館を持つことができるようになる。また、実際の教室経営についての必要な知識やノウハウを知ることができる。

## 授業展開と内容

- 第1回 ピアノ指導法について具体的な事例をもとに考察し、より理解を深めていく。それと同時に従来の指導法に対する問題意識を持つことで、この分野に対する関心を高めていく。
- 第2回 学生自身の体験を語ることによって、現在までどのような指導を受けていたのかを振り返る。それに基づいて、指導者としてどのような資質やスキルが求められるのかを考察する。
- 第3回 J.S.Bach及びその息子たちの作品について研究する。それに基づいて指導の際に留意する点について理解を深める。
- 第4回 G.F.ヘンデルの作品について研究する。それに基づいて指導の際に留意する事柄についての理解を深める。
- 第5回 D.スカラッチのソナタについて研究する。それに基づいて指導の際に留意する事柄についての理解を深める。
- 第6回 練習曲について考察する。練習曲の歴史や練習曲とは如何なるものかについて、具体的な例をもとに研究し理解を深める。
- 第7回 チェルニーの<練習曲100番>について考察する。それに基づいてこの練習曲の目的を理解し、実際の指導で用いる際に留意する事柄についての理解を深める。
- 第8回 チェルニーの<練習曲30番>について考察する。それに基づいてこの練習曲の目的を理解し、実際の指導で用いる際に留意する事柄についての理解を深める。
- 第9回 チェルニーの<練習曲40番>について考察する。それに基づいてこの練習曲の目的を理解し、実際の指導で用いる際に留意する事柄についての理解を深める。
- 第10回 ブルグミュラー<25の練習曲>の第1番から第9番までを考察し、この練習曲の特質を理解する。また、実際の指導法についても研究する。また昨今のブルグミュラーを取り巻く状況についても考察する。
- 第11回 ブルグミュラー<25の練習曲>の第10番から第17番までを考察し、この練習曲の特質を理解する。また、実際の指導法についても研究する。
- 第12回 ブルグミュラー<25の練習曲>の第18番から第25番までを考察し、この練習曲の特質を理解する。また、実際の指導法についても研究する。
- 第13回 その他の作曲家による練習曲の考察を通して、実際の指導法について研究する。具体的にはクレメンティ、クラマー、モシェレス、ケスラー、ビシュナ等を取り上げる。
- 第14回 ピアノ指導における人間関係の問題についての理解を深める。第1回目は生徒との円滑なコミュニケーションの取り方について研究する。
- 第15回 ピアノ指導における人間関係の問題についての理解を深める。第2回目は生徒の保護者との円滑なコミュニケーションの取り方について研究する。
- 第16回 古典派の作品①：第1回目はM.クレメンティの<ソナチネOp.36-1及び36-3>について考察し、その演奏法及び指導法について理解を深める。
- 第17回 古典派の作品②：第2回目はM.クレメンティの<ソナチネOp.36-4及び36-6>について考察し、その演奏法及び指導法について理解を深める。
- 第18回 古典派の作品③：第3回目はF.クーラウの<ソナチネOp.55-1及び55-2>について考察し、その演奏法及び指導法について理解を深める。
- 第19回 古典派の作品④：第4回目はA.ディアベリの<ソナチネOp.151-1>及びJ.L.デュセックの<ソナチネOp.20-1>について考察し、その演奏法及び指導法について理解を深める。
- 第20回 古典派の作品⑤：第5回目はF.J.ハイドンの<ソナタHob.XVI-27及び35>について考察し、その演奏法及び指導法について理解を深める。
- 第21回 古典派の作品⑥：第6回目はW.A.モーツァルトの<ロンドKV485>及び<変奏曲KV265>について考察し、その演奏法及び指導法について理解を深める。
- 第22回 古典派の作品⑦：第7回目はL.v.ベートーヴェンの<ロンドOp.51>及び<変奏曲WoO70>について考察し、その演奏法及び指導法について理解を深める。
- 第23回 ロマン派の作品①：第1回目はF.メンデルスゾーンの<無言歌集>について考察し、その演奏法と指導法について理解を深める。
- 第24回 ロマン派の作品②：第2回目はF.F.ショパンの<ワルツOp.18>、<即興曲Op.66>、<ノクターンOp.9-2>について考察し、その演奏法と指導法について理解を深める。
- 第25回 ロマン派の作品③：第3回目はR.シューマンの<ユーゲントアルバムOp.66>及び<子供の情景Op.15>について考察し、その演奏法と指導法について理解を

深める。

- 第26回 近現代の作品①：第1回目はG.フォーレ、M.ラヴェル、C.ドビュッシー、F.プーランク等のフランスの作曲家の作品を考察し、その演奏法と指導法について理解を深める。
- 第27回 近現代の作品②：第2回目はS.ラフマニノフ、A.スクリャービン、S.プロコフィエフ、D.ショスタコーヴィチ等のロシアの作曲家の作品を考察し、その演奏法と指導法について理解を深める。
- 第28回 編曲作品：昨今様々な編曲作品が発表会のプログラムで取り上げられている。その素材となる作品のジャンルも多種多様である。しかし、今後このような作品が今以上にクラシックに参入してくることが予想される。そこで、この回では編曲作品の考察を通して、その演奏法と指導法について理解を深める。
- 第29回 音楽教室経営①：第1回目は理想の音楽教室を思い描き、なぜそのような教室を自分が求めているのかについて、深く考察していく。
- 第30回 音楽教室経営②：第2回目では第1回で思い描いた理想の教室を、どのようにして実現させるか、また設立後どのような運営をしていくのかという現実的な問題について考察する。更に昨今急激に増えてきたコンクールの利用法についても併せて考察する。

#### 履修上の注意

この授業は学生個々の意見を尊重する。そのため、明確な問題意識を持って授業に臨むこと。

#### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

指示された課題については必ずあらかじめ準備をして授業に臨みこと。同時に復習及び研究課題となっている楽曲の練習を十分に行っておくこと。なお、授業内で課す課題については、次回の授業までに必ず消化しておくこと。また、それに関するフィードバックはその都度行う。

#### 教科書・参考書

使用楽譜：必要に応じて指示するので、その都度自分で用意すること。

科目名－クラス名

## 合奏特別演習①

ピアノ

## 曜日時限

水 5時限

## 担当教員

川染 雅嗣

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験	筆記・実技	課題提出	作品提出		
演習	1～	通年	2	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

ピアノ専攻生を対象に、合奏能力を修得し、その知識や経験をそれぞれの専攻に生かしていくことのみならず、アンサンブルピアニストとしてのスキルを磨くことを目的とし、2台ピアノのために書かれた作品を研究する。近年この分野が注目され始め、知られざる2台ピアノのための作品も発掘されつつある。また国内外でコンクールが開催されるようになってきている。そのような状況を踏まえ、古典的な作品からスタートし、ロマン派から近現代まで作品の幅を広げていく。

## 学修成果

この分野のスペシャリストとしての技術と表現能力を獲得できる。また指導者としても活動出来るような知識と経験を身につけることが出来る。更にこの授業を履修しながら、必要に応じて大学主催のオーケストラや吹奏楽公演等にピアニストとして参加することで、ソロや室内楽とは異なる視点に立った合奏能力を身につけることが出来る。

## 授業展開と内容

- 第1回 2台ピアノのための作品を音楽史的に概観する。このジャンルの作品が生まれた社会的な背景や音楽的意義について考察し、1年間の学修の基礎とする。また、現代においてこのジャンルがどのように受容されているかについても考察する。
- 第2回 特に20世紀後半から21世紀にかけて、このジャンルで活躍している演奏家について研究する。また、視聴覚教材等を通して具体的な演奏に触れてみることによって、その音楽的技術力や表現力について考察する。現在連弾と2台ピアノは専従の演奏家が出現するほどに興隆しているが、その社会的及び音楽的需要についても考察し、修了後の活動につなげていく。
- 第3回 W.A.Mozartの<2台ピアノのためのソナタ 二長調 KV448>の1回目。その成立の背景や当時の受容のされ方、楽曲の構成やスタイルについて考察する。そのために複数のグループを作り、そのグループ単位でそれぞれ異なった視点からこの作品について調査し発表する。その発表内容をもとに議論し、この作品についての理解をより深めていく。視聴覚資料を併せて活用する。また、当時演奏に用いられていた楽器についても併せて考察する。
- 第4回 W.A.Mozartの<2台ピアノのためのソナタ 二長調 KV448>の第1楽章を取り上げる。実際の演奏を通してこの楽章を演奏する際の課題を見つけ、お互いに共有していく。複数のグループに分け、全員がPrimoとSecondoを演奏する。また、この楽章が持つ特色についても考察する。
- 第5回 W.A.Mozartの<2台ピアノのためのソナタ 二長調 KV448>の第1楽章の2回目。第4回の内容を踏まえ、より高度な音楽的表現を目指して、各自の技術力や表現力を高めていく。
- 第6回 W.A.Mozartの<2台ピアノのためのソナタ 二長調 KV448>の第2楽章を取り上げる。実際の演奏を通してこの楽章を演奏する際の課題を見つけ、お互いに共有していく。第5回目とは異なる複数のグループに分け、全員がPrimoとSecondoを演奏する。また、この楽章が持つ特色についても考察する。
- 第7回 W.A.Mozartの<2台ピアノのためのソナタ 二長調 KV448>の第2楽章の2回目。第6回の内容を踏まえ、より高度な音楽的表現を目指して、各自の技術力や表現力を高めていく。
- 第8回 W.A.モーツァルトの<2台ピアノのためのソナタKV448>の第3楽章を取り上げる。実際の演奏を通してこの楽章を演奏する際の課題を見つけ、お互いに共有していく。第7回目とは異なる複数のグループに分け、全員がPrimoとSecondoを演奏する。また、この楽章が持つ特色についても考察する。
- 第9回 W.A.Mozartの<2台ピアノのためのソナタ 二長調 KV448>の第3楽章の2回目。第8回の内容を踏まえ、より高度な音楽的表現を目指して、各自の技術力や表現力を高めていく。
- 第10回 J.Brahmsの<ハイドンの主題による変奏曲>の1回目。その成立の背景や当時の受容のされ方、楽曲の構成やスタイル、特色について考察する。そのために複数のグループを作り、そのグループ単位でそれぞれ異なった視点からこの作品について調査し発表する。その発表内容をもとに議論し、この作品についての理解をより深めていく。視聴覚資料を併せて活用する。また、当時演奏に用いられていた楽器についても併せて考察する。
- 第11回 J.Brahmsの<ハイドンの主題による変奏曲>の2回目。実際の演奏を通してこの作品を演奏する際の課題を見つけ、お互いに共有していく。複数のグループに分け、全員がPrimoとSecondoを演奏する。また、この作品が持つ特色についても考察する。
- 第12回 J.Brahmsの<ハイドンの主題による変奏曲>の3回目。第11回目を内容を踏まえ、より高度な音楽的表現を目指して、各自の技術力や表現力を高めていく。
- 第13回 J.Brahmsの<ハイドンの主題による変奏曲>の4回目。第11回とは異なるグループに分け、相手が変わった際の臨機応変な対応の仕方や、音楽を新たに構成していくことの方法を実践的に身につける。
- 第14回 J.Brahmsの<ハイドンの主題による変奏曲>の5回目。第13回の内容を踏まえ、より高度な音楽的表現を目指して、各自の技術力や表現力を高めていく。
- 第15回 14回までの授業の内容を踏まえ、それまでに授業で取り上げた作品を演奏会形式で演奏してみる。それによって2台ピアノの作品を演奏する際に必要な、基本的なスキルを学修する。
- 第16回 R.シューマンの<2台ピアノのためのアンダンテと変奏作品46>の第1回目。その成立の背景や当時の受容のされ方、楽曲の構成やスタイル、特色について考察する。そのために複数のグループを作り、そのグループ単位でそれぞれ異なった視点からこの作品について調査し発表する。その発表内容をもとに議論し、この作品についての理解をより深めていく。視聴覚資料を併せて活用する。
- 第17回 R.シューマンの<2台ピアノのためのアンダンテと変奏作品46>の2回目。実際の演奏を通してこの作品を演奏する際の課題を見つけ、お互いに共有していく。複数のグループに分け、全員がPrimoとSecondoを演奏する。また、この作品が持つ特色についても考察する。またシューマンが作曲時に使用していたであろう楽器についても併せて考察する。
- 第18回 R.シューマンの<2台ピアノのためのアンダンテと変奏作品46>の3回目。第17回の内容を踏まえ、より高度な音楽的表現を目指して、各自の技術力や表現

力を高めていく。

- 第19回 R.シューマンの＜2台ピアノのためのアンダンテと変奏作品46＞の4回目。第18回とは異なるグループに分け、相手が変わった際の臨機応変な対応の仕方や、音楽を新たに構成していくことの方法を実践的に身につける。
- 第20回 F.F.ショパンの＜2台ピアノのためのロンド＞の1回目。その成立の背景や当時の受容のされ方、楽曲の構成やスタイル、特色について考察する。そのために複数のグループを作り、そのグループ単位でそれぞれ異なった視点からこの作品について調査し発表する。その発表内容をもとに議論し、この作品についての理解をより深めていく。視聴覚資料を併せて活用する。また、原曲となったソロ用のロンドについても演奏してみる。ショパン時代の楽器についても考察する。
- 第21回 F.F.ショパンの＜2台ピアノのためのロンド＞の2回目。実際の演奏を通してこの作品を演奏する際の課題を見つけ、お互いに共有していく。複数のグループに分け、全員がPrimoとSecondoを演奏する。また、この作品が持つ特色についても考察する。
- 第22回 F.F.ショパンの＜2台ピアノのためのロンド＞の3回目。第21回目の内容を踏まえ、より高度な音楽的表現を目指して、各自の技術力や表現力を高めていく。
- 第23回 F.F.ショパンの＜2台ピアノのためのロンド＞の4回目。第22回とは異なるグループに分け、相手が変わった際の臨機応変な対応の仕方や、音楽を新たに構成していくことの方法を実践的に身につける。
- 第24回 C.サン＝サーンスの＜2台ピアノのためのベートーヴェンの主題による変奏曲＞の1回目。その成立の背景や当時の受容のされ方、楽曲の構成やスタイル、特色について考察する。そのために複数のグループを作り、そのグループ単位でそれぞれ異なった視点からこの作品について調査し発表する。その発表内容をもとに議論し、この作品についての理解をより深めていく。視聴覚資料を併せて活用する。また、サン＝サーンス時代のピアノについても併せて考察する。
- 第25回 C.サン＝サーンスの＜2台ピアノのためのベートーヴェンの主題による変奏曲＞の2回目。実際の演奏を通してこの作品を演奏する際の課題を見つけ、お互いに共有していく。複数のグループに分け、全員がPrimoとSecondoを演奏する。
- 第26回 C.サン＝サーンスの＜2台ピアノのためのベートーヴェンの主題による変奏曲＞の3回目。第25回とは異なるグループに分け、相手が変わった際の臨機応変な対応の仕方や、音楽を新たに構成していくことの方法を実践的に身につける。
- 第27回 D.ショスタコーヴィチの＜2台ピアノのためのコンチェルティーノ作品94＞の1回目。その成立の背景や当時の受容のされ方、楽曲の構成やスタイル、特色について考察する。そのために複数のグループを作り、そのグループ単位でそれぞれ異なった視点からこの作品について調査し発表する。その発表内容をもとに議論し、この作品についての理解をより深めていく。視聴覚資料を併せて活用する。
- 第28回 D.ショスタコーヴィチの＜2台ピアノのためのコンチェルティーノ作品94＞の2回目。実際の演奏を通してこの作品を演奏する際の課題を見つけ、お互いに共有していく。複数のグループに分け、全員がPrimoとSecondoを演奏する。
- 第29回 D.ショスタコーヴィチの＜2台ピアノのためのコンチェルティーノ作品94＞の3回目。第28回とは異なるグループに分け、相手が変わった際の臨機応変な対応の仕方や、音楽を新たに構成していくことの方法を実践的に身につける。
- 第30回 第29回までの授業の内容を踏まえ、一年間の授業で取り上げた作品を演奏会形式で演奏する。それによって古典派から近現代までの2台ピアノのための作品を演奏する際に必要な、基礎的なスキルを学修する。

#### 履修上の注意

授業に際しては、十分な準備を行なって臨むこと。

#### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

図書館の視聴覚資料や楽譜を大いに活用すること。また学内外で開催される4手連弾や2台ピアノのコンサートをなるべく多く聴くこと。更にシラバスに記載されている作品については必ず60分から90分程度予め予習をしておき、Promo、Secondeいずれのパートでもいつでも演奏できる状態にしておくこと。初見のような状態で授業に臨んではならない。なお、授業内で課す課題については、次回の授業までに必ず消化しておくこと。また、それに関するフィードバックはその都度行う。また、事後の復習を30分必ず行うこと。

#### 教科書・参考書

必要に応じて授業内で指示する。

科目名－クラス名

## 合奏特別演習②

## 曜日時限

木 1時限

## 担当教員

川染 雅嗣

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計	
				定期試験	筆記・実技	課題提出	作品提出			成果発表
演習	2～	通年	2	評価種別	100	0	0	0	0	100
				評価割合	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

合奏特別演習①での学修をもとに、更にその内容を深めていく。①では主に古典派から近現代までの2台ピアノのための作品を概観してきたが、②では学生の自主的な学修を促進することや、独自のレパートリー作り資するような授業展開を行っていく。また、近年盛んになってきた2台ピアノのために編曲された作品についても研究していく。

## 学修成果

①での学修成果に加え、学生個々のレパートリーを構築していくための足がかりを作ることができる。この分野におけるスペシャリストとしての技術や表現力に一層磨きをかけることができる。時代を問わず新たな作品の渉猟ができるようになる。指導者として活動していくために必要なレパートリーを蓄積することができる。

## 授業展開と内容

- 第1回 三善晃の〈唱歌の四季〉について考察する。この作品のもとになった楽曲に関する事柄を、実際の演奏に反映させていく。原曲の理解は、この作品を演奏する上で欠かせない事柄である。視聴覚資料等を通してより深い理解に繋げていく。また同時に履修者を複数のグループに分け、歌詞と旋律の完成性、作品が書かれた経緯等について調査し、発表する機会を設ける。
- 第2回 三善晃の〈唱歌の四季〉を演奏する。全員がPrimoとSecondoを演奏出来るようにする。
- 第3回 三善晃の〈唱歌の四季〉を、パートを交代しながら演奏してみる。それによってそれぞれのパートに固有の難しさを理解する。
- 第4回 J.ブラームスの〈2台ピアノのためのソナタOp.34bis〉について考察する。作品が成立した背景や、この作品に特有のスタイル、技術についても研究する。また、この作品をもとに作曲された〈ピアノ五重奏曲Op.34〉についても考察する。視聴覚教材を併せて活用する。また同時に履修者を複数のグループに分け、それぞれのグループの視点に立った発表を行う。
- 第5回 J.ブラームスの〈2台ピアノのためのソナタOp.34bis〉の第1楽章を演奏する。全員がPrimoとSecondoを演奏出来るようにする。
- 第6回 J.ブラームスの〈2台ピアノのためのソナタOp.34bis〉の第1楽章を、パートを交代しながら演奏してみる。それぞれのパートに固有の難しさを理解し、同時に実践的なスキルをアップしていく。
- 第7回 J.ブラームスの〈2台ピアノのためのソナタOp.34bis〉の第2楽章を演奏する。全員がPrimoとSecondoを演奏出来るようにする。
- 第8回 J.ブラームスの〈2台ピアノのためのソナタOp.34bis〉の第2楽章を、パートを交代しながら演奏する。それぞれのパートに固有の難しさを理解し、同時に実践的なスキルをアップしていく。
- 第9回 J.ブラームスの〈2台ピアノのためのソナタOp.34bis〉の第3楽章を演奏する。全員がPrimoとSecondoを演奏出来るようにする。
- 第10回 J.ブラームスの〈2台ピアノのためのソナタOp.34bis〉の第3楽章を、パートを交代しながら演奏する。それぞれのパートに固有の難しさを理解し、同時に実践的なスキルをアップしていく。
- 第11回 J.ブラームスの〈2台ピアノのためのソナタOp.34bis〉の第4楽章を演奏する。全員がPrimoとSecondoを演奏出来るようにする。
- 第12回 J.ブラームスの〈2台ピアノのためのソナタOp.34bis〉の第4楽章を、パートを交代しながら演奏する。それによってそれぞれのパートに固有の難しさを理解し、同時に実践的なスキルをアップしていく。
- 第13回 S.ラフマニノフの〈2台ピアノのための組曲第2番Op.17〉について考察する。作品が成立した背景や、この作品に特有のスタイル、技術についても研究する。視聴覚教材を併せて活用する。また同時に履修者を複数のグループに分け、それぞれのグループの視点に立った発表を行う。
- 第14回 S.ラフマニノフの〈2台ピアノのための組曲第2番Op.17〉の第1曲「Introduction」を演奏する。全員がPrimoとSecondoを演奏出来るようにする。
- 第15回 S.ラフマニノフの〈2台ピアノのための組曲第2番Op.17〉の第1曲「Introduction」を、パートを交代しながら演奏してみる。それぞれのパートに固有の難しさを理解し、同時に実践的なスキルをアップしていく。
- 第16回 S.ラフマニノフの〈2台ピアノのための組曲第2番Op.17〉の第2曲「Waltz」を演奏する。全員がPrimoとSecondoを演奏出来るようにする。
- 第17回 S.ラフマニノフの〈2台ピアノのための組曲第2番Op.17〉の第2曲「Waltz」を、パートを交代しながら演奏する。それぞれのパートに固有の難しさを理解し、同時に実践的なスキルをアップしていく。
- 第18回 S.ラフマニノフの〈2台ピアノのための組曲第2番Op.17〉の第3曲「Romance」を演奏する。全員がPrimoとSecondoを演奏出来るようにする。
- 第19回 S.ラフマニノフの〈2台ピアノのための組曲第2番Op.17〉の第3曲「Romance」を、パートを交代しながら演奏する。それぞれのパートに固有の難しさを理解し、同時に実践的なスキルをアップする。
- 第20回 S.ラフマニノフの〈2台ピアノのための組曲第2番Op.17〉の第4曲「Tarantelle」を演奏する。全員がPrimoとSecondoを演奏出来るようにする。
- 第21回 S.ラフマニノフの〈2台ピアノのための組曲第2番Op.17〉の第4曲「Tarantelle」を、パートを交代しながら演奏する。それぞれのパートに固有の難しさを理解し、同時に実践的なスキルをアップしていく。
- 第22回 F.ブーランクの〈2台のピアノのためのソナタ〉について考察する。作品が成立した背景や、この作品に特有のスタイル、技術についても研究する。併せて年度末試験のための作品についても学修を続けていく。視聴覚資料を併せて活用する。また同時に履修者を複数のグループに分け、それぞれのグループの視

点に立った発表を行う。

- 第23回 F.プーランクの<2台のピアノのためのソナタ>の第1曲「Prologue」を、パートを交代しながら演奏する。併せて年度末試験のための作品についても、演奏のクオリティを次第に上げていく。
- 第24回 F.プーランクの<2台のピアノのためのソナタ>の第2曲「Allegro molto」を、パートを交代しながら演奏する。併せて年度末試験のための作品についても、更に掘り下げ深めていく。
- 第25回 F.プーランクの<2台のピアノのためのソナタ>の第3曲「Andante lyrico」を、パートを交代しながら演奏する。併せて年度末試験のための作品についても、いつでも舞台上げられる状態にしておく。
- 第26回 F.プーランクの<2台のピアノのためのソナタ>の第4曲「Epilogue」を、パートを交代しながら演奏する。併せて年度末試験のための作品についても、最後の微調整を行い試験に備えておく。
- 第27回 A.ローゼンブラットの<Alice in Wonderland>について考察し、パートを交代しながら演奏する。同時に視聴覚資料を活用しながら、実際の演奏に反映させていくことが出来る解釈の可能性について探っていく。
- 第28回 A.ローゼンブラットの<Carmen Fantasy>について考察し、パートを交代しながら演奏する。同時に視聴覚資料を活用しながら、実際の演奏に反映させていくことが出来る解釈の可能性について探っていく。
- 第29回 A.ピアソラ作品の2台ピアノ版について考察する。ピアソラ作品の編曲で知られる、山本京子氏の編曲に際して心がけている事柄についてのコメントを参考にしながら演奏してみる。視聴覚資料を活用しながら、それぞれの演奏の特徴や編曲の違いとそれがもたらす音楽的效果等について議論する。
- 第30回 1年間の授業内容を踏まえ、学修した作品のうち何曲かを選択し、演奏会形式で演奏してみる。それによって、2台ピアノ作品の演奏法を更に深めていく。

### 履修上の注意

授業に際しては十分な準備を行ってから臨むこと。

### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

図書館の視聴覚資料や楽譜を活用すること。また学内外で開催される2台ピアノのコンサートをなるべく聴くこと。更にシラバスに記載されている作品については必ず60分から90分程度予め予習しておき、Primo、Secondeいずれのパートでもいつでも演奏できる状態にしておくこと。初見のような状態で授業に臨んではならない。なお、授業内で課す課題については次の回の授業までに必ず消化しておくこと。また、それに関するフィードバックはその都度行う。

### 教科書・参考書

必要に応じて授業内で指示する。

科目名－クラス名

## ピアノ②

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
実技・実習	2～	通年	4	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

音楽教養コースのピアノ主科実技科目であり、また作曲・指揮コースの副科（指定者のみ）実技科目で、週1回45分レッスンをおこなう。1年次に引き続き様々なピアノ作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景等についての学修を深める。2年次では一層広範なレパートリーの習得を目指しながら、前期実技定期試験ではロマン派・近現代のレパートリーに取り組み、さらに後期実技試験に向けて各自の実力にあった選曲をおこない、納得のいく成果が得られることを目標とする。音楽教養表現Ⅱを履修していない学生は、後期の16

## 学修成果

①様々なピアノ演奏に触れながら、多様な演奏法、多彩な音色・タッチ等について理解をより深めることができる。②和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素の研究を踏まえた上で、豊富な実践の場を経験することにより演奏能力を向上させることができる。③作曲家や作品についての深い理解と演奏解釈を身につけ、将来の活発な音楽活動等に必要な技術と音楽的知識、教養を高めることができる。

## 授業展開と内容

第1回	1年次の学修成果を踏まえた、個々の学生の現状における課題の点検
第2回	技術の問題について
第3回	音楽的表現方法について
第4回	バロック様式の鍵盤楽器奏法の特徴について
第5回	バロック作品の楽曲分析について
第6回	バロック鍵盤作品の演奏について
第7回	ロマン派のピアノ作品について
第8回	近現代のピアノ作品の特徴について
第9回	前期実技試験のための選曲
第10回	前期実技試験曲の作曲家の時代背景と特性について
第11回	前期実技試験曲の楽曲分析について
第12回	前期実技試験曲の技術的問題点について
第13回	前期実技試験曲の音楽的表現法について
第14回	前期実技試験において演奏レベルを向上させる方法について
第15回	前期実技試験に向けての精神面での訓練方法について
第16回	「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の特徴について
第17回	「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の技術的問題点について
第18回	「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の音楽的表現法について
第19回	「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の演奏レベルを向上させる方法について
第20回	「音楽教養コースコンサート」の成果について
第21回	バロック音楽からロマン派音楽への変遷 技術的問題
第22回	バロック音楽からロマン派音楽への変遷 音楽的な表現
第23回	バロック音楽からロマン派音楽への変遷 演奏解釈
第24回	後期実技試験曲の選曲について
第25回	後期実技試験の選曲決定
第26回	暗譜のための訓練方法について
第27回	後期実技試験曲の技術的問題点について
第28回	後期実技試験曲の音楽表現法について
第29回	後期実技試験曲の演奏レベルを向上させる方法について
第30回	後期実技試験曲通奏による完成に向けての最終確認



#### 履修上の注意

上記授業展開は年間計画としての主要課題を示した物であり、実際は教育目標と概要に則って、各教員の判断により学生個々の状況に応じた課題を課していく。実技試験は前期1回、後期1回行い、その素点を基に成績評価を行う。各試験の日程と課題曲についてはその都度掲示発表する。

---

#### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、作品についての研究・分析を行い、充分準備をして臨むこと。招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等は聴講すること。

---

#### 教科書・参考書

使用する教材及び出版については、実技担当教員が必要に応じて指定する。

科目名－クラス名

ピアノ②

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
実技・実習	2～	通年	4	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

音楽教養コースのピアノ主科実技科目で、週1回45分レッスンをおこなう。1年次に引き続き様々なピアノ作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景等についての学修を深める。2年次では一層広範なレパートリーの習得を目指しながら、前期実技定期試験ではロマン派・近現代のレパートリーに取り組み、さらに後期は卒業試験に向けて各自の実力にあった選曲をおこない、納得のいく成果が得られることを目標とする。音楽と社会コースで音楽教養表現Ⅱを履修する学生は、音楽教養コースのピアノ主科実技と同じように授業を進める

学修成果

①様々なピアノ演奏に触れながら、多様な演奏法、多彩な音色・タッチ等について理解をより深めることができる。②和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素の研究を踏まえた上で、豊富な実践の場を経験することにより演奏能力を向上させることができる。③作曲家や作品についての深い理解と演奏解釈を身につけ、将来の活発な音楽活動等に必要な技術と音楽的知識、教養を高めることができる。

授業展開と内容

- 第1回 1年次の学習成果を踏まえた、個々の学生の現状における課題の点検
- 第2回 技術の問題について
- 第3回 音楽的表現方法について
- 第4回 バロック様式の鍵盤楽器奏法の特徴について
- 第5回 バロック作品の楽曲分析について
- 第6回 バロック鍵盤作品の演奏について
- 第7回 ロマン派のピアノ作品について
- 第8回 近現代のピアノ作品の特徴について
- 第9回 前期実技試験のための選曲
- 第10回 前期実技試験曲の作曲家の時代背景と特性について
- 第11回 前期実技試験曲の楽曲分析について
- 第12回 前期実技試験曲の技術的問題点について
- 第13回 前期実技試験曲の音楽的表現法について
- 第14回 前期実技試験において演奏レベルを向上させる方法について
- 第15回 前期実技試験に向けての精神面での訓練方法について
- 第16回 「コンサート」等で演奏する作品の特徴について
- 第17回 「コンサート」等で演奏する作品の技術的問題点について
- 第18回 「コンサート」等で演奏する作品の音楽的表現法について
- 第19回 「コンサート」等で演奏する作品の演奏レベルを向上させる方法について
- 第20回 近現代のピアノ作品の演奏法
- 第21回 卒業実技試験のための選曲
- 第22回 卒業実技試験曲の作曲家の時代背景と特性について
- 第23回 卒業実技試験曲の楽曲分析について
- 第24回 演奏解釈の多様性について
- 第25回 演奏技術の訓練方法について
- 第26回 暗譜のための訓練方法について
- 第27回 卒業実技試験曲の技術的問題点について
- 第28回 卒業実技試験曲の音楽表現法について
- 第29回 卒業実技試験曲の演奏レベルを向上させる方法について
- 第30回 卒業実技試験曲通奏による完成に向けての最終確認

#### 履修上の注意

上記授業展開は年間計画としての主要課題を示した物であり、実際は教育目標と概要に則って、各教員の判断により学生個々の状況に応じた課題を課していく。実技試験は前期1回、後期1回行い、その素点を基に成績評価を行う。各試験の日程と課題曲についてはその都度掲示発表する。

---

#### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、作品研究を重ね、練習をし準備万端にして臨むこと。招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等は聴講すること。

---

#### 教科書・参考書

使用する教材及び出版については、実技担当教員が必要に応じて指定する。

科目名－クラス名

## ピアノ②

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価方法	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	2～	通年	4	評価方法	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

音楽教養コースのピアノ主科実技科目であり、また作曲・指揮コースの副科（指定者のみ）実技科目で、週1回45分レッスンをおこなう。1年次に引き続き様々なピアノ作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景等についての学修を深める。2年次では一層広範なレパートリーの習得を目指しながら、前期実技定期試験ではロマン派・近現代のレパートリーに取り組み、さらに後期実技試験に向けて各自の実力にあった選曲をおこない、納得のいく成果が得られることを目標とする。音楽教養表現Ⅱを履修していない学生は、後期の16回目から20回目までの授業について、音楽的な表現を中心にレッスンを進める。

## 学修成果

①様々なピアノ演奏に触れながら、多様な演奏法、多彩な音色・タッチ等について理解をより深めることができる。②和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素の研究を踏まえた上で、豊富な実践の場を経験することにより演奏能力を向上させることができる。③作曲家や作品についての深い理解と演奏解釈を身につけ、将来の活発な音楽活動等に必要な技術と音楽的知識、教養を高めることができる。

## 授業展開と内容

第1回	1年次の学修成果を踏まえた、個々の学生の現状における課題の点検
第2回	技術の問題について
第3回	音楽的表現方法について
第4回	バロック様式の鍵盤楽器奏法の特徴について
第5回	バロック作品の楽曲分析について
第6回	バロック鍵盤作品の演奏について
第7回	ロマン派のピアノ作品について
第8回	近現代のピアノ作品の特徴について
第9回	前期実技試験のための選曲
第10回	前期実技試験曲の作曲家の時代背景と特性について
第11回	前期実技試験曲の楽曲分析について
第12回	前期実技試験曲の技術的問題点について
第13回	前期実技試験曲の音楽的表現法について
第14回	前期実技試験において演奏レベルを向上させる方法について
第15回	前期実技試験に向けての精神面での訓練方法について
第16回	「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の特徴について
第17回	「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の技術的問題点について
第18回	「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の音楽的表現法について
第19回	「音楽教養コースコンサート」で演奏する作品の演奏レベルを向上させる方法について
第20回	「音楽教養コースコンサート」の成果について
第21回	バロック音楽からロマン派音楽への変遷 技術的問題
第22回	バロック音楽からロマン派音楽への変遷 音楽的な表現
第23回	バロック音楽からロマン派音楽への変遷 演奏解釈
第24回	後期実技試験曲の選曲について
第25回	後期実技試験の選曲決定
第26回	暗譜のための訓練方法について
第27回	後期実技試験曲の技術的問題点について
第28回	後期実技試験曲の音楽表現法について
第29回	後期実技試験曲の演奏レベルを向上させる方法について
第30回	後期実技試験曲通奏による完成に向けての最終確認

#### 履修上の注意

上記授業展開は年間計画としての主要課題を示した物であり、実際は教育目標と概要に則って、各教員の判断により学生個々の状況に応じた課題を課していく。実技試験は前期1回、後期1回行い、その素点を基に成績評価を行う。各試験の日程と課題曲についてはその都度掲示発表する。

---

#### 授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、作品についての研究・分析を行い、充分準備をして臨むこと。招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等は聴講すること。

---

#### 教科書・参考書

使用する教材及び出版については、実技担当教員が必要に応じて指定する。

科目名－クラス名

## ピアノ実技Ⅰ①

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	1～	通年	9	評価割合	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

ピアノ演奏家コースの主科実技科目（個人レッスン週1回90分）である。演奏家として活躍していく上で必要なレパートリー（協奏曲を含む）を中心に学修する。個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについても研究し、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品までを学ぶ。なお、4年次前期実技試験課題は協奏曲である。

## 学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨き、演奏家として必要な表現力を養っていく。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	個々の課題における改善方法
第3回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第4回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第5回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第17回	個々の課題における改善方法
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

---

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

---

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

## ピアノ実技Ⅰ①

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	1～	通年	9	評価割合	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

ピアノ演奏家コースの主科実技科目（個人レッスン週1回90分）である。演奏家として活躍していく上で必要なレパートリー（協奏曲を含む）を中心に学修する。個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについても研究し、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品までを学ぶ。なお、4年次前期実技試験課題は協奏曲である。

## 学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨き、演奏家として必要な表現力を養っていく。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	個々の課題における改善方法
第3回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第4回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第5回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第17回	個々の課題における改善方法
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）



履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

---

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

---

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

## ピアノ実技Ⅰ②

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	2～	通年	9	評価割合	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

ピアノ演奏家Ⅰコースの主科実技科目（個人レッスン週1回90分）である。演奏家として活躍していく上で必要なレパートリー（協奏曲を含む）を中心に学修する。個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについても研究し、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品までを学ぶ。なお、4年次前期実技試験課題は協奏曲である。

## 学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨き、演奏家として必要な表現力を養っていく。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	個々の課題における改善方法
第3回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第4回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第5回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第17回	個々の課題における改善方法
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

---

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

---

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

## ピアノ実技Ⅰ②

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	2～	通年	9	評価割合	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

ピアノ演奏家Ⅰコースの主科実技科目（個人レッスン週1回90分）である。演奏家として活躍していく上で必要なレパートリー（協奏曲を含む）を中心に学修する。個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについても研究し、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品までを学ぶ。なお、4年次前期実技試験課題は協奏曲である。

## 学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨き、演奏家として必要な表現力を養っていく。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	個々の課題における改善方法
第3回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第4回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第5回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第17回	個々の課題における改善方法
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

---

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

---

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

## ピアノ実技Ⅰ③

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	3～	通年	9	評価割合	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

ピアノ演奏家Ⅰコースの主科実技科目（個人レッスン週1回90分）である。演奏家として活躍していく上で必要なレパートリー（協奏曲を含む）を中心に学修する。個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについても研究し、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品までを学ぶ。なお、4年次前期実技試験課題は協奏曲である。

## 学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨き、演奏家として必要な表現力を養っていく。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	個々の課題における改善方法
第3回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第4回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第5回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第17回	個々の課題における改善方法
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

---

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

---

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

## ピアノ実技Ⅰ③

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	3～	通年	9	評価割合	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

ピアノ演奏家Ⅰコースの主科実技科目（個人レッスン週1回90分）である。演奏家として活躍していく上で必要なレパートリー（協奏曲を含む）を中心に学修する。個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについても研究し、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品までを学ぶ。なお、4年次前期実技試験課題は協奏曲である。

## 学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨き、演奏家として必要な表現力を養っていく。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	個々の課題における改善方法
第3回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第4回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第5回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第17回	個々の課題における改善方法
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）



履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

---

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

---

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

## ピアノ実技Ⅰ④

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験				授業内小テスト	
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表					
実技・実習	4～	通年	9	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

ピアノ演奏家Ⅰコースの主科実技科目（実技レッスン）である。演奏家として活躍していく上で必要なレパートリー（協奏曲を含む）を中心に学習する。個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについても研究し、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品までを学ぶ。なお、4年次前期実技試験課題は協奏曲である。

## 学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）等について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨き、演奏家として必要な表現力を養っていく。

## 授業展開と内容

第1回	前期オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	個々の課題における改善方法
第3回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第4回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第5回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品に則した演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品に則した演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	後期オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第17回	個々の課題における改善方法
第18回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第19回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品に則した演奏スタイルを学ぶ）
第24回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品に則した演奏スタイルを修得する）
第25回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）
第29回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

---

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、充分準備をして臨むこと。

---

教科書・参考書

適宜資料を配付する。

科目名－クラス名

## ピアノ実技Ⅰ④

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	4～	通年	9	評価割合	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

ピアノ演奏家Ⅰコースの主科実技科目（実技レッスン）である。演奏家として活躍していく上で必要なレパートリー（協奏曲を含む）を中心に学習する。個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについても研究し、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品までを学ぶ。なお、4年次前期実技試験課題は協奏曲である。

## 学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）等について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨き、演奏家として必要な表現力を養っていく。

## 授業展開と内容

第1回	前期オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	個々の課題における改善方法
第3回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第4回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第5回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品に則した演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品に則した演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	後期オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第17回	個々の課題における改善方法
第18回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第19回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品に則した演奏スタイルを学ぶ）
第24回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品に則した演奏スタイルを修得する）
第25回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）
第29回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	卒業実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

---

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、充分準備をして臨むこと。

---

教科書・参考書

適宜資料を配付する。

科目名－クラス名

## ピアノⅠ②

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
実技・実習	2～	通年	6	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

ピアノミュージッククリエイターコース、ピアノ指導者コース、ピアノ音楽コースの主科実技（個人レッスン週1回60分）科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏という行為を通して理解を深めていくことを目標としている。いわゆるヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて学修する。具体的には、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

## 学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）等について研究し、また和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。学修した主要な作品については、レパートリーとしてしっかりと身に付けていく。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	音楽的表現に基づく腕・上体の使い方
第3回	スケール試験に向けて（タッチ強化トレーニング方法）
第4回	スケール試験に向けて（敏捷性トレーニング方法）
第5回	スケール試験に向けて（技術的問題点を挙げる）
第6回	スケール試験に向けて（技術的問題点等の解決方法を探る）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（バロック時代における演奏スタイルを学ぶ）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（近現代作品における演奏スタイルを学ぶ）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	個々の学生に応じた課題について
第17回	個性ある演奏表現について学ぶ
第18回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者について理解する）
第19回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル等を修得する）
第25回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）
第27回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を修得する）
第29回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲についてはその都度掲示発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

---

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

---

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

## ピアノⅠ②

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	2～	通年	6	評価割合	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

ピアノコースの主科実技（個人レッスン週1回60分）科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏という行為を通して理解を深めていくことを目標としている。所謂ヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて学修する。具体的には、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

## 学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）等について研究し、また和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。学修した主要な作品については、レパートリーとしてしっかりと身に付けていく。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	音楽的表現に基づく腕・上体の使い方
第3回	スケール試験に向けて（タッチ強化トレーニング方法）
第4回	スケール試験に向けて（敏捷性トレーニング方法）
第5回	スケール試験に向けて（技術的問題点を挙げる）
第6回	スケール試験に向けて（技術的問題点等の解決方法を探る）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（バロック時代における演奏スタイルを学ぶ）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（近現代作品における演奏スタイルを学ぶ）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	個々の学生に応じた課題について
第17回	個性ある演奏表現について学ぶ
第18回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者について理解する）
第19回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル等を修得する）
第25回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）
第27回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を修得する）
第29回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）



履修上の注意

実技試験課題曲についてはその都度掲示発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

---

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

---

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

## ピアノⅠ②

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
実技・実習	2～	通年	6	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

ピアノミュージッククリエイターコース、ピアノ指導者コース、ピアノ音楽コースの主科実技（個人レッスン週1回60分）科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏という行為を通して理解を深めていくことを目標としている。いわゆるヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて学修する。具体的には、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

## 学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）等について研究し、また和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。学修した主要な作品については、レパートリーとしてしっかりと身に付けていく。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	音楽的表現に基づく腕・上体の使い方
第3回	スケール試験に向けて（タッチ強化トレーニング方法）
第4回	スケール試験に向けて（敏捷性トレーニング方法）
第5回	スケール試験に向けて（技術的問題点を挙げる）
第6回	スケール試験に向けて（技術的問題点等の解決方法を探る）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（バロック時代における演奏スタイルを学ぶ）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（近現代作品における演奏スタイルを学ぶ）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	個々の学生に応じた課題について
第17回	個性ある演奏表現について学ぶ
第18回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者について理解する）
第19回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル等を修得する）
第25回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）
第27回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を修得する）
第29回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲についてはその都度掲示発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

---

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

---

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

## ピアノⅠ④

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	4～	通年	6	評価割合	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

ピアノミュージッククリエイターコース、ピアノ指導者コースの主科実技（実技レッスン）科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏という行為を通して理解を深めていくことを目標としている。ヨーロッパ音楽を起点とし、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて学修する。具体的には、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

## 学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。学修した主要な作品については、レパートリーとしてしっかりと身に付けていく。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	民族主義的な作曲家作品を視野に入れたレッスン（作曲家についての理解を深める）
第3回	民族的主義的な作曲家作品を視野に入れたレッスン（楽曲内容を学ぶ）
第4回	20世紀の作曲家作品を視野に入れたレッスン（作曲家についての理解を深める）
第5回	20世紀の作曲家作品を視野に入れたレッスン（楽曲内容を学ぶ）
第6回	前期実技試験曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）
第14回	前期実技試験曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	個々における技術的問題点について
第17回	邦人作曲家作品について
第18回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第19回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第25回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）
第29回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

---

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、充分準備をして臨むこと

---

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

## ピアノⅠ④

## 曜日時限

## 担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	4～	通年	6	評価割合	100	0	0	0	0	100

## 教育到達目標と概要

ピアノミュージッククリエイターコース、ピアノ指導者コースの主科実技（実技レッスン）科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏という行為を通して理解を深めていくことを目標としている。ヨーロッパ音楽を起点とし、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて学修する。具体的には、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

## 学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。学修した主要な作品については、レパートリーとしてしっかりと身に付けていく。

## 授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	民族主義的な作曲家作品を視野に入れたレッスン（作曲家についての理解を深める）
第3回	民族的主義的な作曲家作品を視野に入れたレッスン（楽曲内容を学ぶ）
第4回	20世紀の作曲家作品を視野に入れたレッスン（作曲家についての理解を深める）
第5回	20世紀の作曲家作品を視野に入れたレッスン（楽曲内容を学ぶ）
第6回	前期実技試験曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）
第14回	前期実技試験曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	個々における技術的問題点について
第17回	邦人作曲家作品について
第18回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第19回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第25回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）
第29回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	卒業実技試験曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

---

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、充分準備をして臨むこと

---

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

## 2022年度(後期・通年)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：70 教員名：川染 雅嗣

### 1) 評価結果に対する所見

まず、最初に驚いたのは10名の学生に対して、回答した学生が3名ということである。これでは良好なアンケート結果とは言えないであろう。昨年度も同様のことを書いたのだが、回答数を増加させる手段はないものであろうか。この回答結果をより良い教育内容に反映させていくとすれば、より多くの学生に回答して貰いたいと思う。

### 2) 要望への対応・改善方策

全員(3名)が全ての質問で<そう思う>と回答しているが、この結果をそのまま素直に喜んで受け入れることは出来にくい。今回回答しなかった学生たちはどう答えたのだろうかという問いを自らに投げかけ、この結果に甘んじることのないように努めていきたいものである。

### 3) 今後の課題

22年度はジストニアという病気についての知見を広める機会があり、指導者として学ぶところが非常に多かった。楽器(器楽のみならず声楽でも)を長時間弾く生活を続けていると、特定の部位に負担がかかる。それは演奏技術の習得には避けて通ることは出来ない。ところが、その過度の負担を回避するために脳リスク回避のための信号を発し、欲するところではない部位が反応するようになってしまう。その為演奏が困難になる。これがジストニアである。その病気を発症したために精神的に不安定になり、学修を継続することが困難になった例も多々ある。このような症例は現在急速な勢いで増加傾向にあり、恐らく全国の音楽大学でもこの傾向が見られるのではないか。今後は指導者としてのスキルアップの一環として、このような病気に対する正しい知識を習得して行かなければならない。そして、日頃のレッスンでも生かしていかなければならない時代が来ていると思う。多様化する学生に対応するためには、その専門家並みの知識や技術を身につける必要があるのではないか。これは留学生や精神的に障害を持つ学生に対するのと同様に重要な課題となってくるだろう。また、ICTに関しては更に加速度的に普及し、複雑化していくに違いない。この方面は特に授業科目でも有効に働かせることから、関連する知識や技術を習得していきたい。

以上